

PHIJ感想文

Mデンタルクリニック松野歯科
歯科衛生士 大村 結美

今回PHIJに参加させていただけるという話を院長からうかがった時、最初は歯周外科やインプラントなどアメリカの専門医の勉強をされた方からセミナーを受けられるなんて楽しみだなと思いました。

しかし歯科衛生士が講義を受けてついていけるのか、むしろDrがもう一人行ったほうがいいのではないかと募集要項にDr一人とDHか助手と書いてあることに疑問を持っていました。

なぜなら、私はPHIJに参加する前は外科やインプラントはDrの領域という思いがあり、歯科衛生士は初期治療（SRPなどの）技術を磨くべきと考えていたからです。

当初はそんな思いの中での参加となりましたが、そんな考えは初日から覆されました。中でもマクガイヤ先生の遺伝や免疫の話は衝撃的でしたし、再生療法で何が出来るのか症例を見れば見るほど自分の患者様にこれが提供出来たらと思いました。提供するにはよく知らなくてははいけません。つまり、私たち歯科衛生士であったとしてもそのオペで何が出来るのか、何が出来ないのか理解し、詳しく説明できなくてはいけないのです。

講義の中で何度か築山先生が歯科衛生士さんにも受けてほしくてとおっしゃったのですが、まさにその通りだと思います。

PHIJに参加してこれまでと違い歯周外科や再生療法の話しを説明することができるようになりましたし、それこそ次の日から歯周病の予後判定を活用したりしてその歯が長期的にみてもつのか、F₁-opeがいいのか再生療法がいいのかそもそもやらない方がいいのか自分で考えられるようになり、とても勉強になりました。歯科衛生士さんは是非参加してください。

最期にこのようなセミナーを日本で受けられるようにしていただいた講師の先生方に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。